

3 満州國幣制改革に対する日本の協力

在満洲國

727

昭和10年5月30日 在奉天蜂谷(輝雄)總領事より
廣田外務大臣宛

滿州國幣の對銀貨値下落傾向について

普通第二六八號

昭和十年五月三十日

(6月5日接受)

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年五月三十日附

在滿大使宛往信寫送付

普通第三八四號

件名

一、國幣ノ對銀洋比率低下狀況並ニ其影響ニ關スル件

普通第三八四號

昭和十年五月三十日

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄

普通第三八四號

昭和十年五月三十日

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄

二、右國幣ノ暴落原因トシテハ

(1)米國ノ銀買上法並ニ銀國有令等銀貨吊上政策ノ採用ハ

銀相場ノ強調ヲ誘致シ中華民國ノ在銀續々海外ニ流出

シ之ニ加フルニ中國ニ於ケル金利高ニ促サレ現在銀輸出禁止中ノ満洲國ヨリ安東、圖們方面ヲ經テ盛ニ密輸

現洋對國幣相場最高百七十三圓ノ高値ヲ呼ヒ一般滿商ニ

尠カラサル衝擊ヲ與ヘツツアリ

出行ハレ安東ノミニテモ本年一月中百一十六萬圓、二月中百五十三萬圓、三月ニ入りテハ一ヶ月ニ六百萬元ノ多額ニ昇リ稅關ノ調查ニ依レハ昨年十一月以降今日迄一千萬圓ヲ突破セリト見ラレ在滿銀ノ激減力國幣相場ノ軟調ヲ馴致セルコト

(口)満洲國貨幣法第十條ニハ「満洲中央銀行ハ紙幣發行高ニ對シ三割以上ニ相當スル銀塊金塊確實ナル外國通貨又ハ外國銀行ニ對スル金銀預ケ金ヲ保有スルコトヲ要ス」ト規定シ同第十一條ニ「前條ニ掲ケタル準備額ヲ控除セル殘餘ノ發行高ニ對シテハ公債證書政府ノ發行又ハ保證セル手形其他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保有スルコトヲ要ス」ノ規定有り満洲中央銀行康德元年下半年期業務報告書ニ據レハ同期ニ於ケル紙幣發行高ニ對スル正貨準備保有量ハ平均五割五分ニ達シ中銀準備制度ハ着々堅實味ヲ加ヘツツアルモノノ如キモ兌換ノ停止ハ満洲國人ノ先天的現銀愛好心ト相俟テ國幣ニ對スル信用ニ大ナル暗影ヲ投シ一般満人殊ニ下級無智滿人ハ今尙國幣ヲ事變前ニ於ケル不換紙幣ト同一視スル向多ク多大ノ不安ヲ抱キツツアルコト

(ハ)満洲中央銀行從來ノ國幣發行高ハ一億一、三千萬圓ナリシカ満洲國現狀ヨリ見テ右發行高ニテハ甚シク不足勝ニシテ流通圓滑ナラス一例トシテハ熱河方面ニ於テ國幣ノ流通ヨリ朝鮮銀行券ノ流通旺盛ナルカ如キ變態ヲ示セリ然ルニ最近一般經濟界ハ特產ノ值上リ其他ノ材料ニ惠マレ好轉シ來リ之カ必然的ニ貨幣發行高ノ膨脹ヲ促シ最近ニ於ケル満洲中央銀行ノ國幣發行高ハ一億八、九千萬圓ニ達セリ然ルニ一般ノ人氣ハ斯ル狀況ヲ寧ロ満洲國「インフレー」政策ニ依ルモノト爲シ自然國幣價值ノ低下ヲ呼フコトトナレルコト

(二)次ニ北鐵讓渡完了ニ依リ満洲國ハ二千數百萬圓ノ支拂勘定ヲ有スルコトトナリタルカ一般人氣ハ滿洲國ノ現狀ヨリ見テ斯ル勘定ノ銀準備ハ中央銀行ニナク單ニ國幣紙幣増發ヲ見ルニ止マルモノト觀測セラレ國幣ノ信用從テ其ノ價值低落ヲ助長セルコト

等ヲ舉クルコトヲ得ヘク以上諸原因相錯綜シテ現下ノ國幣暴落ヲ馴致セルモノナルカ之等ハ畢竟大部分人氣的材料ニ依ル銀洋對國幣價值ノ動搖ナリト概言スルヲ得ヘシ、銀洋騰貴ノ滿商ニ與フル影響トシテハ投下資本ノ回収率

一、満洲國建國當初二於ケル國幣對現大洋相場ハ百圓ニ付國幣三圓高ニテ其後昭和九年下半期ニ至ル迄ハ國幣稍強含氣味ニテ大ナル波瀾ナク概シテ堅調ニ推移シ來リタル處(別添相場表參照)昨年末頃ヨリ銀洋漸次上騰ノ氣配ヲ示シ殊ニ本年度ニ入り國幣ハ俄然大巾ノ落調ヲ辿リ四月中現洋對國幣相場最高百七十三圓ノ高値ヲ呼ヒ一般滿商ニ尠カラサル衝擊ヲ與ヘツツアリ

申進ス

記

特命全權大使 南 次郎殿
國幣ノ對銀洋比率低下狀況並ニ其影響ニ關スル件
本件ニ關シ當館係官ニ於テ奉天市總商會、滿洲中央銀行奉天分行等ニ就キ調査シタル所左記ノ通り何等御参考迄報告申進ス

ニ關シ國幣對現大洋相場ノ價開キニ基ク損失打擊ヲ主タルモノトス即チ當市ニ活躍スル滿商數ハ最近ノ調査ニ依レハ一萬三千八百八十餘軒ニ達シ昨年九月頃ニ比較シテ約四千軒ノ增加ヲ示シ居レルカ之ヲ投資關係及本支店其他ノ支配關係ヨリ見ルニ滿洲生拔キノモノ五千三百十七軒河北山東方面ヨリ來レル北支系約七千九百軒、安徽、江蘇方面ニ根據ヲ有スル南方系約五百六、七十軒ニ上り居レリ而シテ吉順絲房、洪順盛、恒發成ヲ初メトシテ奉天滿商中最モ有力ナルモノハ多ク北支系ニ屬シ其ノ取扱業者ノ手ニ依リ動カサルル所ナルカ之等商工業者ハ其ノ商業上ノ根據地タル支那本土ヨリ盛ニ商品ヲ取寄セ當市場ニ於テ販賣消化シ國幣ヲ以テ回収ヲ行ヒツツアリ然ルニ彼等ノ資本金ハ殆ント全部現洋硬貨ヲ本位トスル關係上之カ決済ニ當リテハ銀洋ノ昂騰ニ因リ四、五割以上ノ損失ヲ招キツツアル現狀ニシテ之等商人ハ從來ノ商取引方法ニテハ採算引合ハス仕入其他一般ニ手控ノ狀態ニテ例ヘハ當市ニ於テ滿支間爲替決済ニ「リーディングパー」

ト」ヲ演シ居レル中國銀行奉天支店取扱ノ本年一月以降天津向送金爲替ハ
一月 四三一、七二七圓五七
二月 一〇一、四〇六圓一九
三月 一四七、一五六圓二五
四月 一三三、二七六圓七一
ニシテ一月以降ニ於テハ一月ニ比シ實ニ六、七割ノ減少ヲ示シ居リ又上海向送金爲替ハ
一月 二四五、一五六圓六八
二月 四二、一〇九圓四〇
三月 四一三、六一一圓六七
四月 二七九、六〇一圓七八
ノ數字ヲ計上シ居リ爲替取組高トシテハ格別減少ノ傾向ヲ窺ヒ得サルモ同行側ノ説明ニ據レハ國幣下落ニ起因スル資本逃避其他ノ關係モ有リ右數字ノミニテハ邊ニ判斷シ難ク結局諸般ノ事情ヲモ綜合シ滿商ノ對支取引高ハ實際上現洋ノ奔騰ニ因リ急速度ノ減退ヲ示シツツアリト觀測シ居ル趣ナリ
四、更ニ金錢貸借問題ニ付テ見ルニ最近當地方法院民事部ニ
持チ込マル事件多數ニ上リ均シク貸王ハ元金回収ニ當リ大洋ヲ主張シ借主ハ現大洋ニ依ル償還ヲ嫌ヒ國幣支拂ヲ主張スルモノニシテ同法院トシテモ之カ判決ニ際シ引用スヘキ條文無ク已ムヲ得ス調停若クハ滿洲中央銀行奉天分行ノ市價ニ應シ其日ノ相場ニ依リ償還セシムル方法ヲ取リツツアルモ法院ニテハ此種問題ハ今後頻發スヘキモノトシテ司法部ニ對シ金錢貸借等ハ總テ國幣ニ依ル様適當ノ辦法ヲ執ラレ度キ旨申請セル模様ナリト謂フ
五、述上ノ如ク現大洋ノ騰貴ハ一般満人方面ニ多大ノ衝擊ヲ與ヘ各資本家共之カ成行ヲ憂慮シ最近奉天市商會同工會兩機關ニテハ聯名ヲ以テ政府當局ニ對シ之カ救濟方法ヲ請願シタルモ滿洲國現下ノ狀勢ニテハ兌換開始ノ斷行ハ頗ル困難ニテ滿洲中央銀行ニ於テハ通貨ノ收縮、金利引上等ニ依リ僅カニ國幣價值引戻ニ努力シツツアル有様ニテ一方御承知ノ通滿洲國稅關側ニ於テモ經濟政策上ノ一大支障タル現銀密輸出ノ取締ニ努メ各機關ト連絡ヲ取り具體的對策講究中ナルモ未タ所期ノ效果ヲ擧クルニ至ラサルヤニ見受ケラレ殊ニ最近米國政府ノ銀買上續行ノ報道モアリ旁々國幣ニ對スル當地滿商一般ノ人氣ハ依然軟

728 昭和10年10月12日 在滿州國南大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州國貨幣制度維持のため朝鮮國境における
銀密輸に対する日本側取締の徹底方要請

新 京 10月12日後発
本 省 10月12日後着

第八九七號

客年十月以來滿洲國ニ於ケル銀ノ國外流出激増シ同國貨幣制度ノ維持運用上支障大ナルハ既ニ御承知ノ通ナルカ之カ徹底的取締ニ關シ關係機關ニ於テ目下根本對策ノ樹立ニ腐心シ居ル處國內ニ於ケル取締ノミニテハ所期ノ目的ヲ達シ

得サルヲ以テ取締ノ最毛困難ナル鮮滿國境ニ於テ我方稅關及警察ノ取締並ニ密輸者ノ處分ニ付一層ノ協力ヲ得度ク特ニ我方稅關ニ依ル輸入免許ノ事實上ノ拒否其ノ他ノ方法ニ

依リ本件銀流出ノ徹底的取締ニ關シ我方ノ援助ヲ得度キ旨申越アリタルヲ以テ不取敢朝鮮總督府、關東局、安東領事ニ對シ右ノ次第通報致シ置キタルモ中央ニ於テモ關係ノ向ト御協議ノ上本件滿側ノ希望達成方ニ付特ニ御配慮相煩度シ

朝鮮總督、安東へ轉電シ關東局總長へ轉報セリ

關係文書郵送ス

昭和10年11月2日 広田外務大臣より
在滿州國南大使宛(電報)

729

滿州國幣價値安定ならびに幣制統一に関する方針および実行要綱を對滿事務局參與事務官會議で決定について

別電 十一月二日発広田外務大臣より在滿州國南大使宛第七六四号

右参与事務官會議における諒解事項

尚本件閣議決定ヲ俟チ日滿兩國ニ於テ本件ニ關シ可然公表ヲ爲ス豫定ナリ
リ
編注 別電第七六三号は第730文書付記閣議決定の方針および実行要綱と同文であるので省略。

(別電)

本省 11月2日後7時發

第六六四號

諒解事項

一、滿洲國ハ滿洲國國幣價値安定並幣制統一ニ關スル件第一 實行要綱第一ノ三ノ適用トシテ對日爲替相場ヲ一對一トシテ維持スル方策ヲ定メ之ガ實現ニ努力シ居レリ 日本側ニ於テモ此ノ滿洲國ノ方策ヲ諒承シ右滿洲國國幣價値安定並幣制統一ニ關スル件ノ方針並實行要綱ニ基キ之ヲ援助スベシ 然レトモ國幣ノ圓ニ對スル等價維持ノ方策ハ前記要綱ノ原則ニ基クモノナルヲ以テ滿洲國ノ自力ニ立脚スベキコトハ當然ナリトス

出席者

(付記)
滿洲國國幣價値安定並幣制統一ニ關スル
參與事務官會議議事要錄
主催者 對滿事務局
期日 昭和十年十一月二日
場所 對滿事務局會議室
閉會 午前十時二十分
閉會 午前十一時四十五分

同	拓務省	同	同	同	同	同	外務省	同	同	同	同	同	内閣	樋貝參事官	横溝書記官	△三橋書記官	植村事務官	松井調查官	古莊次官	今井軍務局長	片倉少佐	△平井主計正	桑島東亞局長	柳井東亞第三課長	△北澤事務官	津島次官	青木理財局長	湯本國庫課長	△梅北事務官	入江次官	文書課長	

付記 十一月二日

右参与事務官會議議事要錄

本省 11月2日後7時發

(△印ハ關係官)

本日ノ會議ニ於テ各參與事務官ノ同意ヲ得バ本月四日ノ閣議ニ上程シタキ意嚮ナリ

先ツ大藏省理財局長ヨリ本案ノ説明ヲ煩シ度

初メニ本案ノ朗讀ヲ致スベシ

(湯本國庫課長朗讀入)

事務局 川島總裁

川越次長

増田庶務課長

竹内殖產課長

山越行政課長

河村事務官

佐々木事務官

岩畔事務官

武内事務官

東福事務官

渡邊事務官

青木理財局長

滿洲國ニ於テハ建國當時ヨリ本位制度ヲ金銀何レニ爲スベキヤノ議論アリタルモ滿洲國人心ノ安定ヲ計ルコトガ最モ緊要ナリトスル見地ヨリ法文上ハ銀本位ニ非ザルモ從來支那ノ幣制ヲ踏襲スルノ趣旨ニ基キ銀トノ關聯ヲ有スル幣制ヲ採用スルコトシ今日ノ制度ノ樹立ヲ見タル次第ナルガ右ハ第一着手ノ仕事トシテハ成功セルモノト思考セラル

爾來滿洲國ノ幣制ハ順調ニ繼續セラレタルガ昨今殊ニ米國政府ノ銀價引上政策ニ依リ銀本位國タル支那ハ固ヨリ滿洲國ニ於テモ幣制ノ動搖ヲ招來スルニ至レリ此ノ如キ他國ノ突飛ナル政策ニ幣制ノ基礎ヲ左右セラルコトハ獨立國タル滿洲國ノ堪ユル所ニ非ザルヲ以テ滿

川島議長

只今ヨリ一部ノ參與事務官會議ヲ開會ス

滿洲國國幣價值安定竝幣制統一ニ付現地ヨリ提案アリ其ノ後該案ニ基キ關係各廳ニ於テ慎重協議ヲ遂ゲタル結果議纏マリタルヲ以テ本日本會議ヲ開催セリ

洲國ハ茲ニ通貨制度ノ再検討ヲ必要トスルニ至レリ、而シテ是レ廳テ本案ノ仍テ生レタル因由ナリトス然ラバ如何ニセバ滿洲國ノ幣制ヲ最合理的ナラシメ得ルヤト謂フニ、先づ法制的ニ如何ナル本位制度ヲ採ルベキヤノ根本問題アルベシ、然レ共今日ハ世界ヲ舉ゲテ幣制不安ノ時期ナルヲ以テ法制上ノ安定ヲ計ルヨリモ寧口事實上ノ通貨ノ安定ヲ計ルニ如カズト思考スルモノナリ而シテ他方滿洲國建設以來同國ニ於ケル通貨トシテハ國幣ノ外ニ鮮銀券ガ大ナル勢力ヲ有シ單ニ州内附屬地ノミニ止マラズ滿洲國本來ノ領域ニ迄深ク喰ヒ入り居レリ右ハ大正ノ初メ滿洲ニ於テ日本人ノ發展ヲ期セシムルノ手段トシテ考案セラレタル從來ヨリノ方針ノ繼續ニシテ事變后殊ニ其ノ流通範圍ヲ擴大セラレタルハ日本人ノ滿洲發展ニ隨伴セルガ爲ニ他ナラズ

然ルニ今日ノ滿洲國ヲ見ルニ同國ハ獨立國トシテ存立ス

ルコトトナリ既ニ中央銀行ノ設立ヲ見幣制ノ確立ヲ得、

我國ハ之ヲ援助スベキ地位ニ立ツニ至レルヲ以テ此點ヲ考慮セバ鮮銀券ノ流通ニ對シテモ再検討ヲ行フノ要アリ

ト認メラル

仍チ我國トシテハ此際事變前ニ於ケル對滿經濟政策ヲ轉換シテ鮮銀券ノ流通ヲ國幣ニ換ヘシメ以テ國幣ノ安定ニ資セザルベカラズト思考ス

然レ共之ガ實行ハ我國ニ對スル影響ヲモ充分考慮セザルベカラザルト共ニ滿鐵附屬地行政權ノ調整乃至移讓、治外法權ノ撤廢等トノ關係ヲ考慮シツツ必要ナル準備ヲ整へ漸進的ニ之ヲ爲スコト固ヨリ肝要ナリトス而シテ差當リ之ガ實行方法ハ本案要綱ニ示セル如シ尙本案ニ於テハ關東州ヲ除外セルモ右ハ關東州ヲ經濟關係ヨリ見レバ滿洲國ト一体ヲ爲シ且重要ナル地位ニ在ルヲ以テ之ヲ除外スルコトハ不徹底ノ嫌ヒナキニ非ザルモ法制上ノ理由ニ基キ暫ク之ヲ除外スルコトセリ以上要綱ニ付少シク説明ヲ加フベシ

實行要綱ニ於テハ滿洲國側ノ採ルヘキ方策ト本邦側ノ採

ルヘキ方策トノ二ツニ分チ勘案セリ

滿洲國トシテ國幣價值ノ安定ヲ計ル方法ハ大体今日我國ガ採レル努力ト同一方法ナリ即チ一方ニ於テハ爲替管理ニ依リ資本ノ逃避ヲ防グト共ニ他方ニ於テハ根本策トシテ經濟力ノ涵養ヲ圖ル必要アリ

而シテ國幣價値ノ安定ハ自力ヲ以テ之ニ努力スルニ非レバ永續スルモノニ非ズ我國ヨリノ資金ノ援助ニ依リテ安定ヲ求ムルガ如キハ我國ノ現狀ヨリ見ルモ到底不可能事ナルヲ以テ此點ヲ明ニスル爲特ニ「自力ヲ以テ」トイフ文句ヲ挿入セリ

又國幣ノ對外價値安定ノ目標ヲ何レノ國ノ通貨ニ置クベキヤトイフ點ニ付キテハ過般銀ノ突飛ナル騰貴ニ依リ不安ヲ招キタル事、日滿兩國ノ特殊關係等ヨリ見テ日本圓ヲ目標ト爲スコト最モ自然且妥當ナルベキヲ以テ特ニ對日爲替相場ノ安定ニ言及セリ

尙滿洲國政府及中央銀行ハ以上ノ目的ヲ達スル爲帝國政府、日本銀行及在滿本邦側銀行ト一層連絡協調ヲ計ルベキコト必要ナリト認メラル

次ニ本邦側ノ採ルベキ方策トシテ第一ニ重要ナルハ鮮銀券ノ滿洲國ニ於ケル流通ヲ撤去セシムル點ナリトス之ハ法制ノ力ニ依リ一舉ニ解決スル途アルベキモ實際上幾多ノ不便アルヲ以テ鮮銀業務ノ統制ニ依リ之ガ實現ヲ期スルヲ以テ可ナリト認ム其ノ一方法トシテ例ヘバ哈爾濱ノ如キ附屬地外ノ鮮銀ノ銀行券發行ハ之ヲ廢止セント

斯但此處ニ所謂銀行券ノ發行トハ銀行券ヲ單ニ銀行ノ窓口ヨリ出ス意ニ非ズ、新ニ紙幣ヲ法律上ノ發行トシテ出スノ意ナリ第一號ノ(イ)記載事項ハ主トシテ關東局爲替管理運用ニ關スルモノナリ第三號ハ今日迄鮮銀券ノ流用ニ多年慣熟セル日本人ヲシテ國幣ノ使用ニ轉換セシムル自然的良策トシテ大口ノ使用者タル軍、滿鐵等ヲシテ範ヲ示サシメントスル意ナリ

最後ニ諒解事項ニ付一言スベシ

右事項ハ閣議ニハ提出セズ當事務局會議ニ於ケル諒解事項トシテ承知願度

國幣ノ對日比價ハ本年八月以來一對一ノ相場ニ釘付ケトナレリ而シテ右ハ滿洲國當事者ノ希望トシテ之ヲ維持シタキ考ナル由ナリ

鮮銀券ヲ國幣ニ換ユルニ同一價値ナレバ極メテ便宜ナルヲ以テ滿洲國側ガ今日ノ爲替相場維持ニ努力セラルルハ結構ナルヲ以テ其ノ點ハ日本モ之ヲ認メ援助シテ行キ度考ナリ

然シ乍ラ右ハ動モスレバ一對一ヲ維持スル爲日本側ガ如何ナル犠牲ヲ拂ヒテモ之ヲ維持スルモノナリト考ヘラル

ル虞アルモスルコトハ實行要綱ニ述ベタル「自力」ノ原則ニ反スト謂フベシ固ヨリ滿洲國ハ新生國家ナルヲ以テ

自力ト謂フモ自ラ限度アルベシ同國今日迄ノ發展ハ寔ニ我國資本ニ負フ所多大ナルモノアリ、我國ノ對滿資本輸出ガ國幣價値ノ安定ニ資スル所アルハ從來ト異ル所ナカルベキモ資本輸出ハ單ニ貨幣價値安定ガ目的ニ非ズシテ自ラ獨自ノ目的ヲ有スルモノナルヲ以テ無制限ノ資本貸出ヲ希望スルニ至ラバ我國トシテモ勝工難キ狀態ニ陥ルベシ

我國自身ニ於テモ全ク自力ニ以テ圓價ノ安定ニ努力シツツアルモノナルヲ以テ滿洲國ニ於テモ飽迄自力ニ依リテ國幣價値ノ安定ニ努ムベキモノト考フ

而シテ滿洲國ノ斯ル自力ニ依ル努力ニ對シテハ日本側モ極力援助スベキコトヲ特ニ諒解事項トシテ此ニ表示セルモノナリ

川島議長

之ヨリ質疑ニ入ルベシ

入江拓務次官

本案ノ實行ハ單ニ滿洲經濟ノミナラズ日本ノ經濟界ニモ

影響アル極メテ重大問題ナルヲ以テ種々質問致度モ簡單ニ伺フコトト致スベシ

大體閣議決定事項案ヲ見ルニ滿洲側ノ採ルベキ方策ト日本側ノ採ルベキ方策トアルモ之ヲ決定セル曉ニハ日本ガ滿洲國ヲ指導スル爲ノ日本丈ノ決定ナリヤ或ハ滿洲側ト協定ヲ爲スコトノ決定ナリヤ

川越次長

本邦側ノ方策ハ閣議決定ノ上本邦側ガ遂行ノ任ニ當ルコト勿論ナリ

滿洲國ト協定ガ出來ル譯ナリヤ

川越次長

別ニ協定云々トイフモノニ非ズ滿洲國成立當初ヨリノ我對滿國策一般ト同様ノヤリ方ニテ進マントスルモノナリ

入江拓務次官

了解ス

大体本案ノ骨子ハ承知セルモ個々ノ點ニ付御尋不致度

實行要綱第一ノ滿洲國側ノ採ルベキ方策トシテ掲ゲラレ

タル内容ハ滿洲國國幣ノ對外爲替ノ安定トイコトヲ最モ主眼トセルヤニ思料セラル、而シテ右ハ滿洲國ノ現狀ニ取り至極尤モノコト考フルモ其ノ對日爲替相場ヲ一タル如ク滿洲國ノ經濟基礎ガ強固トナルコトニ依り始メテ可能ナルベシト信ズルモノナリ

然ルニ滿洲國ノ實情ヨリ見レバ自力ニ依リテ幣價ノ安定ヲ得ルコトハ困難ナリト認メラルモ右ハ果シテ自力ニ

依リテ安定ヲ期シ得ル見込ナリヤ寧口實際ハ日本ノ援助指導ニ依リテ安定ヲ得ムトスルニ非ズヤ若シ自力ニヨル安定ガ至難ナリトセバ日本ノ對滿投資モ鮮銀券ノ撤去モ共ニ困難トナルニ非ズヤ、此ノ點ニ付大藏省側ノ所見ヲ伺ヒ度

青木理財局長

國幣ノ爲替相場安定ハ從來ト雖モ日本ノ對滿投資ニ俟ツ所大ナリ

今後モ大体日本ヨリノ資本輸出ガ必要不可缺ナリト思惟ス併シ此ノコトハ必ズシモ滿洲國ノ自力ニヨル安定ヲ否定スルコトハナラザルベシ、蓋シ日本ノ對滿投資ハ主

トシテ滿鐵ノ社債等ヲ通ジテ產業ノ開發、交通ノ發展ヲ見自然ニ自力ガ生ズルコトトナリ其結果國幣ノ等價維持ヲ容易ナラシムルニ至ルベキヲ以テナリ
若シ我國ノ對滿資本輸出ガ減少セバ滿洲國ノ貿易、產業政策ヲシテ之ニ應ジテ調整セシメ以テ對日爲替相場ガ一對ニ維持セラル様適當ニ指導スルノ必要起ルベシ、而シテ右ハ專ラ我國ノ指導方針ノ運用ニ存スル問題ナリ

入江拓務次官

個人ノ意見ナルモ今日迄ノ滿洲經濟ノ發展ハ我國ノ對滿投資ニ依ル所多大ナリト思料ス然ルニ今ヤ滿洲國建設事業モ略一段落ナリト聞ク果シテ然ラバ今後ニ於ケル我國ノ對滿投資ハ餘リ期待シ得ザルニ非ズヤト思考ス、新聞ノ報道ヲ見ル壬滿鐵十一年度豫算ハ非常ノ緊縮方針ナリト聞ク之同社投資ノ重要部門タル鐵道建設モ略一段落トナリシ爲ナルベシ、斯クシテ滿鐵ヲ通ズル社債等ノ投資額モ將來ハ相當減少スルニ非ズヤ
仍テ此際日本政府トシテハ思ヒ切ツタ積極的考慮無クンバ一對一ヲ維持セシムルコトハ至難ナルベシト思考ス、固ヨリ右ハ私見ニ過ギズ

次ニ本論ニ入りテ伺フモ第一項第一號ニ所謂「資本逃避」ニハ日本ニ對スルモノヲモ含マルルヤ

青木理財局長

之ハ爲替管理法ノ內容ノ問題ニナルモ只今ノ滿洲國ノ方針ニ由レバ日本トノ關係ニ於テハ資金ノ移動ヲ自由ナラシムル意嚮ト聞キ及ベリ

入江拓務次官

次ニ第二項ニ移リ本邦側ノ採ルベキ方策ニ付伺ヒ度

該案ニ示サレタル方針ノ如ク日本ノ銀行券ニ統制ヲ加フルコトノ必要性ニハ同感ナリ

然レ共今日迄鮮銀券、鈔票ノ流通ガ日本人ノ發展ニ貢獻セル所多大ナルモノアリタルハ否ムベカラズ、事變後ニ於ケル滿洲國ノ發展亦同斷タリ

依リテ之等銀行ニ對スル統制ハ不得已トスルモ今日迄ノ銀行ノ地位、權益ヲ考フレバ其ノ蒙ル損害ニ對シ相當補償ヲ與フル必要アルベシト思考ス
之ニ付テハ如何

青木理財局長

實行要綱ガ具体的ニ進行スレバ當然起ル問題ナルベシ、

次ニ第二號(口)ニ付テハ當然ナル事項ナルモ滿洲ニ於テハ中央銀行ガ普通業務ヲモ行ヒ居レルヲ以テ之ガ爲本邦側ノ銀行ハ非常ナル壓迫ヲ受クベシト思料ス、中央銀行ト鮮銀トノ間ニ業務協定ノ如キモノヲ成立セシムル考ナリヤ、腹案アラバ伺ヒ置キ度シ

青木理財局長

勿論實行ノ場合ニハ諸種ノ協定締結セラルベシト思ハル、

中央銀行ガ普通業務ヲ行フガ爲正金ヤ鮮銀ガ影響ヲ受ク

ルコトトナレバ當然其際問題トナルベシ、本要綱ハ爲替
管理ニ付書キタルニ過ギズ普通業務ノ方ハ考慮外ニ置ケ
ルモノナルガ勿論協定等ノ方法ニ依リ日本側銀行ノ蒙ル
損害ハ或程度緩和シ得ベシト考ヘ居レリ

入江拓務次官

將來中央銀行ヲ日本ノ日銀ノ如ク銀行ノ銀行トナス考ヘ
ナキヤ

青木理財局長

理想トシテハ銀行ノ銀行トナスベキモノト信ズルモ滿洲
國ノ特異性トシテ普通銀行ノ業務ヲモ兼不行フコトハ止
ムヲ得ザル事情ニ在ルナリ從來ハ特產取引ニ付テモ中銀
ガ地方ニ進出シテ取引ヲ爲セル習慣アリタルニ付一擧ニ
分野劃定ヲ爲スハ困難ナルベシ、將來ニ對スル理想トシ
テハ貴見ノ如シ

入江拓務次官

將來ハ分野ノ劃定ヲ必要ト思惟ス、斯クセバ日本側ノ銀
行ハ一方ニ於テ發券業務ヲ失フモ他方ニ於テ普通業務ヲ
擴大セラルルヲ以テ非常ニ實行ガ容易ニナルベシ、其ノ
主旨ヲ明示セラレ度シ

第三號ニ於ケル「事情ノ許ス限り」トハ如何ナル方法ヲ
以テ國幣ヲ使用セシムル意ナリヤ

青木理財局長

法制的ニ強制スルノ意嚮ナシ、法制ニ依ラズ軍、滿鐵等
ノ大口使用者ヲシテ使用セシメ漸進的ニ行フ意嚮ナリ

桑島東亞局長

質疑ニ非ザルモ意見ヲ述ヘ差支ナキヤ

川島議長

質疑無クンバ差支ナシ

桑島東亞局長

外務省ハ本案ニ賛成ナリ

唯本案ノ運用ニ當リ考慮セラレ度點アリ

本案ノ實行ヲ圓滑ナラシムルニハ滿洲國ノ金融經濟ヲ最
モ圓滑ニ發達セシムルコト必要ニシテ之ガ爲ニハ滿洲國
金融機關ノ中樞ハ中央銀行ナルニ鑑ミ同行ハ其ノ使命ノ
重キニ任ジ經營ニ慎重ナル注意ヲ拂ヒ以テ本案ノ實行ヲ
確保スルコト及日滿關係ヲ強化セシムルノ見地ヨリ同行
ニ日本資本ヲ參加セシメ合辦ノ如キ組織トシ以テ日本ノ
實權下ニ確保スルノ必要アリト信ズスル遣リ方ノ前例ト

主旨ヲ明示セラレ度シ

入江拓務次官

シテハ日本ト韓國銀行ノ例及伊太利ト「アルバニア」ノ
國立銀行トノ關係ノ如キ事例アリ考慮ニ值スト思料ス

實行要綱第一、第四號ニ日滿ノ政府及銀行間ニ「連絡協
調ヲ確保スル爲適當ナル措置」云々トアルモ其ノ方法ノ

具体的説明無キニ付右意見ノ點ヲ關係當局者ニ於テ考慮

願置度

川島議長

意見又ハ質問ナキヤ

入江拓務次官

簡單ニ意見申上度

本案ノ箇條書ニ付意見ヲ申上グルニ非ザルモ追加トシテ

二件加ヘ度シ

(一)「方針」實行ニ據リ將來日本側金融機關ガ不利益ヲ蒙
ル場合ハ充分ナル補償ヲ與フルト共ニ業務ノ發展ニハ

日本政府ノ援助ヲ與フルコト

(二)鮮銀ヲシテ本方針ノ實行ニ協力セシムルニハ中銀トノ
間ニ業務上ノ分野ヲ定ムルコト

川越次長

方針(二)ニ在ル程度ヲ以テシテハ如何特ニ鮮銀ト明示セザ

安心ヲ與ヘ置クノ要アリト認メ重ネテ主張ス

青木理財局長

中銀トノ間ニ業務上ノ協定ハ出來ル見込ナリソレト同時

ニ發券ニ代ル代償問題ガ種々生ズベシト思料セラル、然レ共右ハ本大綱ノ決定ヲ見テ後起ル事項ニシテ大綱作製ニ當リテハ斯ル具体的對策ニ付考フルコトハ適當ナラス、

御意見ハ第二段ノ對策トシテ考慮願度

入江拓務次官

細目ノ問題ニ非ズ

根本方針ナリ精神ナリヲ伺フモノナリ

川越次長

然ラバ此處ニ含マレ居ルニ非ズヤ

強ヒテ文句ニ表現スル要ナキニ非ズヤ

今井軍務局長

方針第二、實行要綱第一項第四號ニモ精神ハ盛ラレアル

ヲ以テ拓務省ノ分ハ希望意見トシテ議事錄ニ留メ本案ヲ

此儘成立セシメテハ如何

入江拓務次官

本件ヲ議事錄ニ留ムルハ勿論問題ナキモ實際ニ表シ度キ

意嚮ナルヲ以テ滿洲中央銀行トノ協定ノ場合ニハ然ウイ
フコトヲ入ルルトノ諒解ヲ得置カバ可ナリ

津島大藏次官

方針(二)ノ最後ノ「措置」ノ字句中ニ「若シ必要アレバ補償ヲモ含ム」トイフ意味ヲ參與會議ニ於テ認メラルトセバ如何

入江拓務次官

私ノ意見モ同様ナルニ付御説ノ如ク諒解ヲ得バ異議ナシ

川島議長

他ニ意見無キヤ

川島議長

閉會ヲ宣ス

(川越次長ヨリ新聞發表案ハ四日ノ閣議決定後大藏省側ノ意見ヲモ聞キ事務局等ヨリ適宜發表スベキニ付御了解願度旨發言アリ

一同賛成ス)

730 昭和10年11月4日

廣田外務大臣より
在満州國南大使宛(電報)

滿州國幣價値安定ならびに幣制統一に関する閣議決定について

付記 十一月四日、閣議決定

「滿洲國幣價値安定並幣制統一ニ關スル件」

本省 11月4日後 4時30分発

第七六六號

往電第七六二號ニ關シ

本件閣議案ハ豫定通り四日ノ閣議ニ於テ原案通り決定セラレタリ

(付記)

滿洲國國幣價値安定並幣制統一ニ關スル件

滿洲國國幣ノ對外價值ハ米國ノ銀政策ニ基ク銀價昂騰ニ因リ事實上銀トノ連繫ヲ絶ツニ至リタルカ將來ニ於ケル銀價ノ動向ハ豫測シ難キノミナラス世界主要國ノ通貨ハ共通ノ基礎ヲ離レ其ノ價值ハ不斷ノ動搖ヲ免レサル現狀ニアルヲ以テ國幣ノ本位制度ノ決定ハ我國ヲ含ム世界主要國ノ通貨ノ確立安定ヲ見、國幣ノ對外價值ノ事實上ノ安定力相當長期ニ亘リテ維持セラレ、右ノ狀勢ニ應シ國幣ノ本位制度

依テ茲ニ滿洲國國幣價値安定並幣制統一ニ關シ左記方針ヲ決定シ先以テ左記ノ實行要綱ニ依リ之方實現ヲ期セントス

第一 方針

満洲國ノ國幣價值安定並幣制統一ニ關シテハ

我力法制上疑義アルヲ以テ關東州ハ本案ニ依ル幣制統一區域ニ含マサルモノトス

(一) 滿洲國側トシテハ現在ニ於テハ國幣ノ對外價值ノ事實上

ノ安定ヲ圖リ將來世界主要國ノ通貨制度再確立ノ際ニハ

何時ニテモ合理的ナル水準ヲ以テ法律上ノ安定ヲ爲ス方

針ノ下ニ之カ爲必要ナル準備ヲ整フルコト肝要ナリ

(二) 本邦側トシテハ本邦側銀行券ヲシテ將來適當ナル時期ニ

國幣ニ統一整理セシメ、依テ國幣價值ノ安定ニ資スルヲ

適當トスヘシ然レトモ右統一ニ當リテハ日滿經濟ノ聯繫

殊ニ日本ヨリノ投資ニ對シ支障無カラシムル様最善ノ措

置ヲ講スル要アルノミナラス治外法權ノ撤廢、附屬地行

政權ノ調整乃至移讓、幣制統一後ニ於ケル本邦側銀行ニ

及ホス影響及之ニ對スル措置等關聯攻究ヲ要スヘキ重大

案件アルヲ以テ之ガ實行ニハ最モ周到ナル準備ヲ爲スノ

要アリ

(註) 關東州ハ經濟上滿洲國ト密接不離ノ關係ニ在ルヲ以テ
兩地域ニ別箇ノ幣制ヲ採ルハ實際上相當ノ不便アルヘ
キモ、國幣ヲ法貨トシテ關東州ニ流通セシムルコトハ

第一 滿洲國側ノ採ルヘキ方策

第二 實行要綱

一、國幣ノ對外價值ノ急激且人爲的ナル動搖ヲ防止スル爲

速ニ爲替管理其他必要ナル措置ヲ採リ、投機的取引ノ

抑制及資本ノ逃避等異常ナル資金移動ノ抑制ヲ圖ルコト

ト

二、經濟力ノ涵養ヲ圖リ以テ國幣ノ價值安定ノ基礎ヲ確立

スルカ爲

(イ) 財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ收支均衡ノ確立保持ニ努力ス

ルコト

(ロ) 產業政策ニ留意シテ國際收支ノ改善ヲ圖ルコト

(ハ) 健全ニシテ適實ナル通貨政策ヲ採リ、且滿洲中央銀

行ノ發券準備タリ得ル資金ノ維持充實ヲ圖ルコト

三、通貨管理ノ方法ニ依リ、事實上自力ヲ以テ國幣ノ對外

價值殊ニ對日爲替相場ノ安定ニ努ムヘキコト

四、政府及滿洲中央銀行ハ帝國政府、日本銀行及在滿本邦

側諸銀行トノ連絡協調ヲ確保スル爲適當ナル措置ヲ講

スヘキコト

第一 本邦側ノ採ルヘキ方策

一、滿洲國國幣價值ノ安定ヲ容易ナラシムル爲、朝鮮銀行

ノ滿洲國ニ於ケル營業ニ關シ適當ナル統制ヲ加フルコ

トトシ特ニ附屬地外ニ於ケル同銀行券ノ發行ハ可及的

速ニ廢止スル様考慮スルコト

三、滿洲國ノ爲替管理ノ實效ヲ擧クル爲

(イ) 本邦側ノ爲替管理ノ制度並運用ニ付適當ナル考慮ヲ

爲スコト

(ロ) 在滿本邦側銀行殊ニ橫濱正金銀行及朝鮮銀行ヲシテ

必要ナル協力ヲ爲サシムルコト

三、在滿本邦官民ハ事情ノ許ス限り國幣ヲ使用スルコトニ

努メ殊ニ軍、滿鐵等ニ於テハ能フ限り國幣ヲ以テ支拂

ヲ爲スコト

~~~~~  
滿洲國國幣價值ノ安定強化ヲ圖ル爲滿洲國ニ於テ

爲替管理實施ノ件(修正案)

囊ニ決定ノ「滿洲國國幣價值安定並幣制統一ニ關スル件」

實行要綱ニ從ヒ滿洲國國幣ノ對外價值ノ急激且人爲的ナル

動搖ヲ防キ併テ幣制ノ基礎ヲ強固ナラシムル爲左記ニ依リ

731 昭和10年11月19日 広田外務大臣より  
在滿州國南大使宛

滿州國における爲替管理実施に關し對滿事務

## 滿洲國ニ於テ爲替管理ヲ實施ス

記

一、爲替管理ノ目的ハ滿洲國國幣ノ投機的取引ノ抑制、資本逃避ノ防止、國幣流通ノ普及、地金銀保有ノ擁護ヲ主眼トシ先ツ以テ之カ實行ハ別紙要綱ニ依ルモノトス

二、本爲替管理ノ實效ヲ舉ケシムル爲日本側ニ於テハ左ノ方策ヲ採ルモノトス

(イ) 滿洲國ニ於ケル爲替管理實施ニ付テハ少クトモ關東州及滿鐵附屬地ヲ除外シテ考慮スルコト不可能ナルヲ以テ滿洲國爲替管理法令ノ附屬地ニ施行セラル迄差當リ附屬地ニ日本側ニ於テ滿洲國ト内容略々同様ノ爲替

管理ヲ實施シ其ノ運用ニ付テハ滿洲國側ト緊密ナル連絡ヲ保持シ滿洲國國幣價値ノ安定ニ協力スルコト  
(ロ) 在滿日本側銀行殊ニ横濱正金銀行及朝鮮銀行ヲシテ滿洲國ノ爲替管理ニ必要ナル協力ヲ爲サシムルコト

(ハ) 滿鐵附屬地外ニ於ケル日本人特ニ銀行ヲシテハ事實上滿洲國ノ爲替管理ノ統制ニ服セシムル様考慮スルコト

三、本爲替管理ノ實施期ハ 年 月 日トス

## 實行要綱

一、外國通貨、外國爲替ノ賣買及外國送金ヲ取締ルコト

(イ) 外國通貨、外國爲替ノ賣買及外國送金ニ付テハ投機的目的ノモノハ絕對ニ之ヲ禁止スルト共ニ法令ニ定ムル範圍ヲ超ユルモノハ財政部大臣ノ許可ヲ要スルコトス

(ロ) 外國通貨、外國爲替ノ賣買ヲ業トスル者ハ顧客ノ前記(イ)ニ違反セル事情ヲ知リ其ノ需メニ應スルコトヲ得サルモノトス

(ハ) 前號ノ業者ハ其ノ賣買ノ明細ニ付日報及月報ヲ提出スルモノトス

(二) 尚外國通貨ノ賣買ノ取締ノ實效ヲ舉クル爲實際上ノ處置トシテ錢鈔取引所ニ於ケル國幣賣買制度ノ廢止ヲ考慮ス

(三) 外國通貨ヲ以テ表示スル債權及證券ノ賣買ニ付適當ノ取締ヲ爲スコト

(四) 國內ニ於ケル外國通貨ニ依ル預金貸借ヲ制限スルコト

四、手持外國通貨又ハ外國爲替ヲ處分シ又ハ特定ノ相手方へ賣却スヘキコトヲ命シ得ル權限ヲ設クルコト

五、外國通貨又ハ外國爲替ノ賣買ヲ特定ノ相手方ニ限りテ爲スヘキコトヲ命シ得ル權限ヲ設クルコト

六、外國通貨建ノ取引ヲ禁止シ得ル權限ヲ設クルコト

七、金ノ輸出、輸送及賣買ヲ取締ルコト

(イ) 金ノ輸出ヲ制限スルコト(現行金輸出禁止法ハ廢止ス)

(ロ) 金ノ賣買ヲ制限スルコト

(ハ) 金ノ國內輸送ヲ制限スルコト

(二) 金ノ處分命令權ヲ設クルコト

八、銀ノ輸出入、賣買及輸送ヲ取締ルコト

(イ) 銀貨ノ輸入ヲ禁止スルコト

(ロ) 銀貨、銀地金ノ輸出ヲ制限スルコト

(ハ) 銀貨、銀地金ノ賣買ヲ禁止又ハ制限スルコト

(二) 銀貨、銀地金ノ國內輸送ヲ制限スルコト

(ホ) 銀貨、銀地金ノ處分命令權ヲ設クルコト

九、外國貨幣ノ輸入ヲ禁止スルコト

十、罰則

禁止又ハ命令事項ノ輕重ニ從ヒ最高三年迄ノ有期徒刑又ハ一萬圓迄(違反取引ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ其ノ金額以下)ノ罰金刑ヲ定ム

## 諒解事項

「滿洲國國幣價値ノ安定強化ヲ圖ル爲滿洲國ニ於テ爲替管理實施ノ件實行要綱」ニ基キ滿洲國ニ於テ爲替管理法令ヲ制定スルニ當リテハ同實行要綱十一「對日本關係ニ關シテハ當分ノ間緩和的取扱ヲ爲スコト」ノ趣旨ニ依リ左記事項ヲ遵守セシムルモノトス

(一〇、一一、一六)

一、外國通貨及外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分外國通貨ノ輸入並外國銀貨ノ輸出及輸送ニ關スル規定ハ本邦法令ニ基ク通貨ニ付テハ之ヲ適用セザルコトヲ明示セシムルコト

二、外國通貨又ハ外國爲替ノ買入其他ノ方法ニ依ル外國ニ對スル送金及外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ滿洲國内ニ於テ爲ス支拂ノ禁止又ハ制限ニ關スル規定ハ關東州又ハ本邦ニ對スル送金及關東州又ハ本邦ニ於テ爲シタル委託ニ基キ滿洲國内ニ於テ爲ス支拂ニ付テハ之ヲ適用セザルコ

トヲ明示セシムルコト

館長宛往信寫送付

件名

三、外國通貨ニ依ル取引ヲ禁止又ハ制限シ得ル權限、外國通貨ニ關スル取引ノ相手方ヲ指定シ得ル權限及外國通貨又ハ外國通貨ヲ以テ表示スル證券又ハ債權ノ所有者ニ對シ處分又ハ賣却ヲ命ジ得ル權限ヲ財政部大臣ニ與フル規定

ニ依リ本邦法令ニ基ク通貨ニ付該權限ヲ行使セントスルトキハ重要ナラザル場合ヲ除クノ外總テ豫メ日本側主務官廳ト連絡スル措置ヲ採ラシムルコト

合機密第一六二三號

昭和十年十一月二十五日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

トキハ重要ナラザル場合ヲ除クノ外總テ豫メ日本側主務官廳ト連絡スル措置ヲ採ラシムルコト

合機密第一六二三號

昭和十年十一月二十五日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

732 昭和10年11月25日 在滿州國南大使より  
廣田外務大臣宛

華北方面より滿州国内への銀密輸取締に關す

る関東軍參謀長の管下憲兵隊宛命令について

公機密第二二〇六號

昭和十年十一月二十五日

(12月3日接受)

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年十一月二十五日附合機密第一六二三號奉天外四公

關參謀第一九三號

滿支國境ニ於ケル銀ノ密輸防止ニ關スル件

本信寫送付先、奉天、安東、營口、錦州、承德

本信寫送付先、外務大臣、駐華大使、北平、天津、山海

關、青島、上海

公機密第二二〇六號

昭和十年十一月二十五日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎〔印〕

大使館警務部長 東條 英機殿

首題ニ關シ別紙ノ如ク關東憲兵隊司令官ニ通牒シタルニ就キ關係方面ニ可然御通達ノ上憲兵側ニ協力方手配相願度依命

右依命

733 昭和10年12月12日 在滿州國南大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

滿支國為替管理實施に伴う日本側銀行の協力

は條約論に拘泥せず事實上の法令適用に応じ

るべき旨意見眞申

新 京 12月12日夜發

本 省 12月12日夜着

關參謀第一九四號

滿支國境ニ於ケル銀ノ密輸防止ニ關スル件

昭和十年十一月十八日 關東軍參謀長 西尾 壽造

關東軍憲兵隊司令官 東條 英機殿

南京政府ノ決行セル幣政<sup>勅令</sup>改革ニ對應シ北支方面ニ於テハ銀

貨流出防止ノ手段ヲ講シ人心ノ安定延テ治安紊亂ノ豫防ニ

努メアル所北支方面ヨリ滿支國境線ヲ越エテ行ハルル銀ノ

不正密輸出ハオ自ラ北支ニ於ケル銀ノ際限無キ流出トナリ

民衆人心ノ安定ヲ害シ該方面就中戰區地帶治安ノ紊亂ヲ招

來スル虞アルヲ以テ當分軍憲兵ニヨリテ密輸出ヲ防止スル

コトニ定メラレタルニ就テハ貴官隸下ノ部隊ヲ以テ可然手

配相成度尙此ノ密輸防止ニ就テハ滿洲國側官憲ニモ協力ヲ

要望シアリ又差押銀貨ハ別命アル迄悉ク最寄滿洲國稅關ニ

保管方依頼スル様處置セシメラレ度

届出等ハ成ルヘク迅速ナラシムルヲ要シ場合ニ依リテハ左

シテ必要モナキ事項ニ付大使館又ハ領事館ハ其ノ責任ノ一  
半ヲ負擔セサルヘカラサル結果トモナリ滿洲國產業法規ノ

適用モ目曉ニ迫リ居ル日本本件ニ關シ治外法權ニ基ク形式  
問題ヲ主張スルハ本法ノ圓滿ナル運用ニ成ルヘク協力スル  
趣旨ニ反ストモ認メラルニ依リ本件届出等ハ關係者ノ自  
發的措置トシテ直接滿洲國側ニ爲サシムルコト致度ク何  
分ノ儀至急御回示ヲ請フ

尙當地關係筋ニ於テモ貴電御來示ノ如キ除外例ヲ設クル以  
上寧口直接滿洲國側へ提出スルコトヲ希望シ居レリ

貴電ノ通り轉電セリ

734 昭和10年12月14日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州國為營管理実施に伴う日本側銀行協力問  
題に關し歐米側の協力承諾に鑑み我が方も事  
実上の法令適用に応じるべき旨意見具申

新 京 12月14日夜発  
本 省 12月14日夜着

735 昭和10年12月19日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州國幣價値安定のため在滿本邦銀行に可  
能な限り國幣を使用するよう指導方訓令

本 省 12月19日後1時30分發

第九〇三號(至急)  
滿洲國々幣價値ノ安定及幣制統一ニ關シ我方ニ於テ援助ス  
ヘキコトニ付十一月四日閣議決定ノ次第八既ニ御承知ノ通

ナル處今般大藏省ニ於テハ右閣議決定ノ趣旨ニ基キ朝鮮、

記

正金兩銀行ニ對シ左記ノ事項ヲ命スルト共ニ當方ニ對シ兩  
銀行以外ノ在滿本邦側銀行ニ於テモ兩銀行ト同様ノ措置ニ  
出ツル様取計アリタキ旨照會ノ次第アリタルニ付テハ右大  
藏省側ノ希望ニ副フ様附屬地外在滿本邦側銀行指導方可然  
御取計アリタシ(鮮銀ニ對スル大藏省ノ命令全文郵送入)  
尙附屬地内ノ銀行ニ付テハ對滿事務局ヨリ關東局宛同様ノ  
趣旨申送リタル由  
追而朝鮮、滿洲中央銀行業務協定實施期日ハ本月二十三日  
ナルニ付右ニ御含アリタシ

第一〇四一號

往電第一〇三三號ニ關シ(滿洲國爲替管理ニ日本側銀行協  
力方ノ件)

在滿歐米側銀行ハ本件法令ノ適用ヲ無條件ニテ承認シ書類  
等モ直接財政部ニ提出スルコトヲ快諾セル旨財政部ヨリ内  
報アリタル處日本側銀行ノミ治外法權ヲ循ニ届出手續ノ形  
式ニ拘泥スルハ我方カ本法令ノ實施ニ協調スヘキコトヲ承  
認シ乍ラ其ノ效果ヲ減殺スルノミナラス前記歐米諸國トノ  
關係ニ於テモ面白カラサルヤニ思考セラルルヲ以テ冒頭往  
電申進ノ通り直接届出ノコトニ御詮議相煩度シ